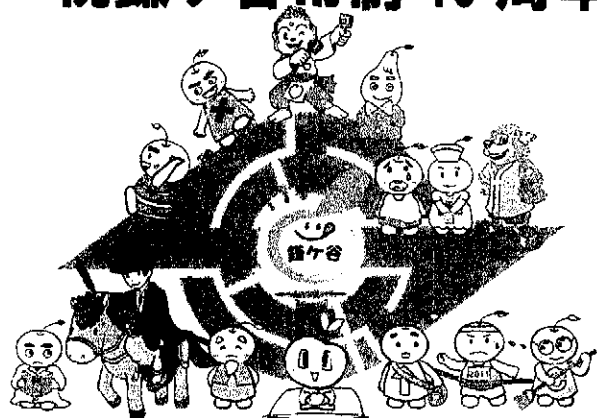


祝鎌ヶ谷市制 40 周年



21 k m²に 108000 人の市民が暮らす、非常にコンパクトな街として発展してきた鎌ヶ谷市です。成田空港と都心とのちょうど中間に位置し、北総台地の繁栄のポテンシャルを十分に持った街になりました。

市民が自づからの街づくりをしていける自治の街として、高齢者も若者も子供も安心して、希望を持って暮らしていける“医療・介護・子育て福祉の街”を緑豊かな鎌ヶ谷の中に創り上げていきましょう。人々の生活を豊かにする福祉の知識産業・医療産業・福祉産業を担う街にしていきたいと思います。

40 周年を祝うプレミアム商品券、市民文化祭、祭りなど事業・イベントが市民協働で行われています。“きらり鎌ヶ谷”を創っていけるのは市民一人一人の力です。

鎌ヶ谷市全市に除染を・・・

文科省による航空機測定によって千葉県内の地表 1m の高さの空間線量率と地表への放射性セシウムの沈着量が明らかになりました。

セシウム沈着量は鎌ヶ谷市の北部は 3 万～6 万ベクレル/m²、南部は 1 万～3 万ベクレル/m²でした。ちなみにチェルノブイリの場合の汚染地区は 3 万 7000 ベクレル/m²以上の地区です。

市内には年間の放射線量 1 ミリシーベルトを超えてしまう場所が出てくることも明らかになりました。市は今後“全市民的な除染”を検討し始めています。公園、保育園、小中学校、道路、側溝など公の場所の除染を 10 月から年内実施にむけて動き始めます。

又、私立の幼稚園については、市単独でも補助金を出して除染活動を支援していこうと部内で検討しています (10/14 現在)。

国は 1 ミリシーベルト/年 (0.26 マイクロシーベルト/h) 以上の場所の除染に財政的支援をすると発表しています。鎌ヶ谷市は国の財政支援の点についても同時並行的に調整していくとのことです。

除染した後の“土”“汚泥”等の処理方法についても、今は埋めていますが、より高度に汚染された部分が出てきたケースを含めて早急に対応を決めていこうと検討しています。事務組合の焼却炉しらすぎの焼却飛灰は 3450 ベクレル/kg で 8000 ベクレル/kg 以下なので現在茨城県の「イバラキ」へ搬入しています。船橋市のアンデルセン公園では 1.55 マイクロシーベルト/h の値が出て場所によって一時立ち入り禁止にしました。鎌ヶ谷高校の側溝で 2.48 マイクロシーベルト/h といった値も出ています。まずは身の周りから除染をし、最終的な処理の方法と場所を出来るだけ早く決定していきたいものです。



「放射能汚染から子どもを守る会」の展示